



ひるば

vol. 97

ひととき

『ホッコーラ、ホッコーラ、本物の森作り』(その二)
 宮脇先生にお出会いして、お話を伺うまで、森に「本物」と「偽物」があるということ、私は知りませんでした。それでは「本物の森」とはどんな森でしょう。

昨日のことのように私の脳裏に鮮明に残る阪神淡路大震災のときのこと、先生の書かれた本を読んでいると次のような記載がありました。「近代技術による構造物は倒壊しましたが、クスノキやカシノキの並木が火災の延焼を止め、崩れる屋根を支えて多くの人の命を守った」というのです。

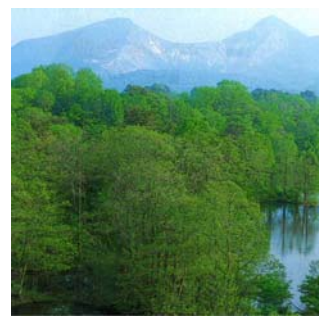
日本は昔本物の森で覆われていました。しかし、今あるのはニセモノです。それは植林した森、商業主義からスギばかりとか、ヒノキばかりというように、ある一種類の木を植えた森です。里山の雑木林も、いつも人の手を加えないと維持出来ません。土砂崩れ、土石流と自然災害に弱く、また、花粉症の原因ともなっています。

宮脇先生の「千年の森を作ろう」という志は、本物の森でないで長持ちしません。その土地に本来生育していた植物で、自然の掟に従って、主木のシイ、タブ、カシ類の高木層、ヤブツバキ、モチノキ、シロダモなどの亜高木層、そしてアオキ、ヤツデ、ヒサカキなどの低木層というように潜在自然植生の多種多様な構成種群で出来ています。樹木の根元は、落ち葉や折れた枝などが腐葉土となって、微生物が

繁殖し、無数の虫たちを育み、落ちた木の実も小動物や小鳥の食べ物になって、昆虫や鳥や動物のフンと共に種が運ばれ新しい芽が吹く。森に降った雨はしっかりと地下に延びた根元に蓄えられて、伏流水となって谷川に流れ、更に大川に注ぎ、海へと下って行きます。何百年も何千年もその土地のどんな自然災害にも耐えて生き延びてきた、その土地本来の潜在自然植生の主木群を中心出来るだけ多くの構成木を「混ぜる、混ぜる」そして密植する。森には高木、亜高木、低木、下草など色々な植物が限られた空間で、互いに少しずつ我慢し合いながら共に生きています。そこに多様性に富んだ健全な森の動植物社会の姿を見出します。それでこそ本物の森と言えるのではないのでしょうか。

今、日本中の森は「鎮守の森」以外は殆どニセモノの森になってしまっています。宮脇先生はそんな日本の森を、昔、日本中を覆っていた本物の森へと変えていこうとされています。先生のその熱い思いの一端でも担わせて頂きたい。土地に本来生育していた木の苗木を植える植樹を私もさせて頂きたい。植樹するときには、一本一本の苗木に愛情を吹き込むために、「タブの木」「タブの木」「タブの木」と三回木の名前を呼んで植えるのだそうです。

自分が植えた木が、人類を、地球を、命を守る本物の森に繋がっていくと、思うだけで心が躍る気持ちが致します。



施設長 中島 聖恵

川柳

「風」

風の糸 切れた如くに 去った彼
 風上げに うつつをぬかす 孫とじじ
 糸切れた 風の自由さが 気にかかる
 風あげも ゲームに変わり 空さみし
 連風の 一直線の こころざし
 空高く 風我が焔に 舞い上がる
 手作りの 風と飛ばした 幼き日
 宇宙まで 届けと風の 尻扇ぐ
 空を舞ふ 風糸たぐる 指太し
 風上げは 昔し定番 今ゲーム
 ゆでたこの いいを魚に すすむ酒
 読者より
 秘せしもの かたき蕾に 春を待つ

育枝 武雄 千里 幸子 一太 初音 厚彦 久子 和夫 久子 晴男 金子

二月の行事予定

三日(水) 一四時 まどかグループ
 四日(木) 一四時 川柳「人生」
 八日(月) 一四時 押し花
 十五日(日) 写真クラブ
 一六日(火) 一四時 お花
 二〇日(土) 一五時 親睦会
 二一日(日) 散髪
 二四日(水) 一〇時四〇分 買い物
 二六日(金) 一一時 食事会(お好み焼き)

あたまの体操

漢字読みクイズ (難易度☆☆☆)

- 一、鯨 二、鮎 三、鯛 四、鰻
- 五、鱈 六、鯉 七、鯨 八、鯉
- 九、鯖 十、鯛 十一、鮒
- 十二、鮪 十三、鱈 十四、鯉
- 十五、鮑 十六、鱈 十七、鯉
- 十八、鯛 十九、鯉 二十、鯛

答は来月号! (出題 賽銭Q)



正月寅年玄関飾り 平成22年